

三組の人

霊操の第二週

二つの旗	考え	理解す	頭
三組の人	感情	手放す	心
謙遜の三段階	意志	決断する	腹

[149] 第四日

〔三組の人〕

同じ四日目に「三組の人」について黙想する。それは、この三組から最も良いものを選ぶためである。

準備の祈り

いつもの通りにする(46)。

[150] 第一の準備

内容をまとめる事。「三組の人」の事であり、それぞれ1万ダカットを手に入れたが、ただ当然なすべき事、すなわち、神への愛だけを求めてそのお金を得たわけではない。三組の人はいずれも救

三組の人

霊を欲し、平和のうちに神を見出したいと望んで、それに害や妨げとなる執着、手に入れたものへの執着を取り除きたいのである。

[151] 第二の準備

見えるように場所を設定する事。ここでは、全善なる神にもっとも叶っているものを望み知るために、主なる神と諸聖人の前にいる自分自身を見る事である。

[152] 第三の準備

望んでいるものを願う事。ここでは、主なる神の栄光と自分の救霊のために一層役立つものを選ぶ事ができるため、恩恵を願う。

[153] 第一組

第一組の人々は、平和のうちに主なる神を見出し、救いが得られるために、手に入れたものへの執着を取り除きたいとは思っているものの、臨終の時迄何の処置も講じない。

[154] 第二組

第二組の人々は、執着は取り除きたいが、手に入れたものを手放さないまま執着だけを取り除きたい。従って、自分の欲する方へ神を来させ、たとえそのものを手放すのが自分に一番望ましい身分だとしても、神の方へ行くためにそれを手放す決定迄はしない。

[155] 第三組

第三組の人々は、執着を取り除きたいが、手に入れたものを保つか保たないかという事に対しても、偏らない心を持ってその執着を取り除きたい。望む事は唯一つ、我が主なる神が自分の心に置か

三組の人

れるところに応じて、又、主なる神への奉仕と賛美のためにその人にとってより良いと思われるところに従って、そのものを持ちたいと望むか、又は望まないという事である。そして、さしあたって、気持ちの上であえて全てを手放そうと思ひ立ち、ただ主なる神への奉仕のためでなければ、そのものも他のものも一切望むまいと努める。従って、主なる神によりよく仕える事ができるという望みだけが何かを受けさせ、又は手放せる動機となる。

[156] 三つの対話

前の「二つの旗」の観想で行ったのと同じ三つの対話をする。

[157] 注意

次の事に注意してよい。私達が実際の貧しさをいとい、反感や嫌気を感じる時、すなわち、貧しさや富に対して不偏心が無い時には、その乱れた愛着を取り除くために（肉に反しながらも）対話において次の事を主に願うのは、極めて役立つ事である。すなわち、主が実際の貧しさに自分をお選び下さるように願い、全善なる神への奉仕と賛美になりさえすれば、自分がその恵を望み、嘆願し、乞い願っていると主に申し上げるべきである。

三組の人

[153] 第一組

第一組の人々は、平和のうちに主なる神を見出し、救いが得られるために、手に入れたものへの執着を取り除きたいとは思うものの、臨終の時迄何の処置も講じない。

第一組: 「愚かな金持ち」のたとえ

ルカ 12, 13-21

¹³ 群衆の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」 ¹⁴ イエスはその人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」 ¹⁵ そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」 ¹⁶ それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。 ¹⁷ 金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、 ¹⁸ やがて言った。『こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、 ¹⁹ こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休み

三組の人

して、食べたり飲んだりして楽しめ」と。』²⁰ しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。²¹ 自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

三組の人

[154] 第二組

第二組の人々は、執着は取り除きたいが、手に入れたものを手放さないまま執着だけを取り除きたい。従って、自分の欲する方へ神を来させ、たとえそのものを手放すのが自分に一番望ましい身分だとしても、神の方へ行くためにそれを手放す決定迄はしない。

第二組: 金持ちの青年

マタイ 19, 16-30

(マルコ 10, 17-31; ルカ 18, 18-30)

¹⁶ さて、一人の男がイエスに近寄って来て言った。「先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか。」¹⁷ イエスは言われた。「なぜ、善いことについて、わたしに尋ねるのか。善い方はおひとりである。もし命を得たいのなら、掟を守りなさい。」¹⁸ 男が「どの掟ですか」と尋ねると、イエスは言われた。

「『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、¹⁹ 父母を敬え、また、隣人を自分のように愛しなさい。』」²⁰ そこで、この青年は言った。「そういうことはみな守ってきました。まだ何か欠けているのでしょうか。」²¹ イエスは言われた。「もし完全になりたいのなら

三組の人

ら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」

²² 青年はこの言葉を聞き、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。²³ イエスは弟子たちに言われた。「はっきり言うておく。金持ちが天の国に入るのは難しい。²⁴ 重ねて言うが、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」²⁵ 弟子たちはこれを聞いて非常に驚き、「それでは、だれが救われるのだろうか」と言った。²⁶ イエスは彼らを見つめて、「それは人間にできることではないが、神は何でもできる」と言われた。²⁷ すると、ペトロがイエスに言った。「このとおり、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました。では、わたしたちは何をいただけるのでしょうか。」²⁸ イエスは一同に言われた。「はっきり言うておく。新しい世界になり、人の子が栄光の座に座るとき、あなたがたも、わたしに従って来たのだから、十二の座に座ってイスラエルの十二部族を治めることになる。²⁹ わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子供、畑を捨てた者は皆、その百倍もの報いを受け、永遠の命を受け継ぐ。³⁰ しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる多くの者が先になる。」

[155] 第三組

第三組の人々は、執着を取り除きたいが、手に入れたものを保

三組の人

つか保たないかという事に対しても、偏らない心を持ってその執着を取り除きたい。望む事は唯一つ、我が主なる神が自分の心に置かれるところに応じて、又、主なる神への奉仕と賛美のためにその人にとってより良いと思われるところに従って、そのものを持ちたいと望むか、又は望まないという事である。そして、さしあたって、気持ちの上であえて全てを手放そうと思ひ立ち、ただ主なる神への奉仕のためでなければ、そのものも他のものも一切望むまいと努める。従って、主なる神によりよく仕える事ができるという望みだけが何かを受けさせ、又は手放せる動機となる。

第三組: ザアカイ／レビ

ルカ 19,1-10

(マタイ 9,9; マルコ 2,14; ルカ 5,27)

¹ イエスはエリコに入り、町を通っておられた。² そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。³ イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見るができなかった。⁴ それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。⁵ イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあな

三組の人

たの家に泊まりたい。」⁶ ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。⁷ これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」⁸ しかし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」⁹ イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。¹⁰ 人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

聖書

第一組

ルカ 14,15-24 : 「大宴会」のたとえ

ルカ 7,31-35 : 広場の子供たち。

ルカ 1,16-21 : 例え話に出てる金持ちの男。

第二組

マタイ 27,24 : 手を洗ったピラト...

三組の人

マルコ 10,17-22: 金持ちの青年

ルカ 9,57-62: 弟子の覚悟

ルカ 14,16-24: 「大宴会」のたとえ

使徒 5,1-11: アナニアとサフィラ（お金の一部を密かに自分のものにしてた…）

ヨハネ 3,1-2: ニコデモが夜にイエスを訪ねた

第三組

創世記 22,1-18: アブラハム

ルカ 1,38: マリア（見よ、主のはしためを…）

ルカ 19,1-10: ザアカイ

マタイ 19,27-29、ルカ 5,11: 使徒たち（私たちはすべてを捨てました…）

マグダラのマリア（マルコ 14,3）：ベタニヤでの油注ぎ、

使徒トマス（ヨハネ 11,16）：「行って一緒に死のう」、

使徒ヨハネ（ヨハネ 19,26）：十字架のふもとに行った、

ニコデモとアリマタヤのヨセフ（ヨハネ 19,38-39）：勇敢にもピラトの前に立った。